

オーストリア・ティロル州社会の基礎構造

Sozial- und Wirtschaftsstruktur im Land Tirol und Bezirkshauptmannschaften

山田 徹 雄

Tetsuo YAMADA

要 旨

ティロル州が一人当たりの高いGDP、低い失業率によって経済の堅調を示し、企業の創業が倒産を大幅に上回っていることを統計的に検証し、人口の堅調な増加傾向と人の移動のありかたを明らかにした。

キーワード：シュタット・ゲマインデ、マルクト・ゲマインデ、国民議会選挙、州議会選挙、産業構造

はじめに

ティロル州の下位行政単位である郡 (Bezirkshauptmannschaft) には、都市郡 (Stadtbezirk) であるインスブルック市 (Innsbruck-Stadt)、と農村郡 (Landbezirk) であるイムスト (Imst)、インスブルック・ラント (Innsbruck-Land)、キットビュール (Kitzbühl)、クフシュタイン (Kufstein)、ランデック (Landeck)、リエンツ (Lienz)、ロイテ (Reutte)、シュヴァッツ (Schwaz) が存在する。インスブルック市は、連邦憲法第116条第3項の定める「憲章都市」(Stadt mit Statut, Statutarstadt) であり、「独自の憲章」を有し、「自治体行政の任務に加えて、郡行政の任務をも行わなければならない。」¹

州内の279ゲマインデの内には、シュタット・ゲマインデ (Stadtgemeinde) が11、マルクト・ゲマインデ (Marktgemeinde) が20ある²。

ティロル州が国境を接するのは、ドイツと351km、イタリアと310km、スイスと61.67kmであり、通行可能な国境は、ドイツとの間に17か所、イタリアとの間に5か所、スイスとの間に2か所存在しているⁱⁱⁱ。

このことから、古来ティロルには「比較的容易なアルプス越えのために」(auf Grund des relative einfachen Alpenübergangs) イタリアとドイツを結ぶ連絡路の「ターンテーブル」(Drehscheibe)として、多数の旅籠(Gasthäuser)が存在していた^{iv}。

本稿は、ティロル州における観光を分析するための準備作業として、ティロル州の政治、社会、経済を定量的に概観する。

1. オーストリアにおけるティロル州

1.1. 自然条件

ティロルは山岳地帯というイメージが強い。事実、オーストリアに存在する海拔3,000m以上の山頂を持つ8山のうち、7山がティロル州に存在している。最も高い山頂はホーエム・タウエム山塊にあるグロスグロックナーである。([表1] 参照)

ティロル州の自然条件は、オーストリアの他の地域とどれほどの差異が存在するのであろうか。首都ウィーンとティロル州のインスブルック空港、リエッツには海拔の差があるにもかかわらず、年間日照時間に大きな違いは見られない。特に、冬季の日照時間はティロル州がウィーンを上回っていることが確認できる。([表2] 参照)

[表1] オーストリアにおける3,000m以上の標高を持つ山

	山頂の所在	標高 (m)	山塊 (Berggruppe)
Großglockner	Tirol, Kärnten	3,798	Hohen Tauern
Wildspitze	Tirol	3,768	Ötztaler Alpen
Großvenediger	Tirol, Salzburg	3,674	Hohen Tauern
Hochfeiler	Tirol, Italia	3,509	Zillertaler Alpen
Zuckerhütl	Tirol	3,507	Stubai Alpen
Olperer	Tirol	3,476	Tuxer (Hoch-) Alpen
Piz Buin	Vorarlberg	3,312	Silvretta
Parseierspitze	Tirol	3,036	Lechtaler Alpen

(典拠) Statistik Austria, *Statistisches Jahrbuch 2015*, p.8

[表 2] 日照時間の変化 (2013 年)

	ティロル州		ウィーン
	インスブルック空港	リエント	ホーエ・ヴァルテ (Hohe Warte)
海拔	579m	668m	202m
1月	77	96	25
2月	97	102	43
3月	155	145	138
4月	198	172	208
5月	158	155	214
6月	197	255	250
7月	306	316	385
8月	249	256	282
9月	176	316	156
10月	174	256	150
11月	75	199	65
12月	129	51	77
年間計	1,991	2,007	1,981

(典拠) Statistik Austria, *Statistisches Jahrbuch 2015*, p.36

[表 3] 月別気温の変化 (2013 年)

	インスブルック(インスブルック大学) 海拔 577m		ウィーン (ホーエ・ヴァルテ) 海拔 202m	
	最高気温	最低気温	最高気温	最低気温
1月	10.8	-9.8	14.8	-9.7
2月	11.5	-10.0	10.8	-5.3
3月	18.1	-7.2	17.7	-6.5
4月	27.0	-1.6	28.0	-0.7
5月	26.7	4.4	25.9	7.2
6月	35.1	6.2	33.4	6.9
7月	36.2	9.5	36.8	11.3
8月	37.4	10.0	38.5	11.2
9月	30.3	6.0	27.0	4.2
10月	23.1	0.2	22.5	1.0
11月	19.0	-8.5	19.7	-1.7
12月	13.7	-6.9	13.3	-3.2

(典拠) Statistik Austria, *Statistisches Jahrbuch 2015*, p.35

州都インスブルックと首都ウィーンの年間気温の変化においても、大きな相違は見られない。わずかに、11月、12月および2月の最低気温においてインスブルックの値がウィーンを大幅に下回っている。（〔表3〕参照）

1.2. 国政選挙における投票行動

〔表4〕は、2013年に行われた国民議会選挙における政党別得票率を示す。オーストリア全体では、中道左派、オーストリア社会民主党（SPÖ）が第一党、中道右派であるオーストリア国民党（ÖVP）がこれに次ぎ、第三党であるオーストリア自由党（FPÖ）までが、20%以上の得票率、緑の党（GRÜNE）が1割を超す得票を得ている。

一方、同選挙のティロル州における得票率では、中道右派であるオーストリア国民党がおよそ28%の投票率であり、以下、自由党、オーストリア社会民主党、緑の党の順であり、全国的な政治意識と比較するとティロル州には保守的な投票行動がみられる。

〔表4〕 国民議会選挙における政党別得票率 2013年（%）

	オーストリア全体	ティロル州
SPÖ	26.8	18.29
ÖVP	24.0	27.78
FPÖ	20.5	18.81
GRÜNE	12.4	15.88
FRANK	5.7	4.70
NEOS	5.0	3.98
BZÖ	3.5	2.02
KPÖ	1.0	0.48

（典拠） Bundesministerium für Inneres, Österreich, Endergebnis inklusive aller Wahlkartenergebnisse, in interrete sub: <http://wahl13.bmi.gv.at/>, 09.08.2015 et Land Tirol, Nationalwahl, 2013 Landesergebnis, in interrete sub: https://www.wahlen.tirol.gv.at/nationalwahl_2013/index.html, 09.09.2015

（注） SPÖ: Sozialdemokratische Partei Österreichs
 ÖVP: Die Österreichische Volkspartei
 FPÖ: Die Freiheitliche Partei Österreichs
 GRÜNE: Die Grünen—Die Grüne Alternative
 FRANK: Das Team Stronach für Österreich
 NEOS: Das Neue Österreich und Liberales Forum
 BZÖ: Das Bündnis Zukunft Österreich
 KPÖ: Kommunistische Partei Österreichs

1.3. 人口

[表5] でオーストリアにおける人口と面積の分布を確認しよう。ティロル州は面積ではニーダーエスターライヒ州、シュタイヤーマルク州に次ぐ規模であり、全国土の15%を占めている。一方人口分布の少ない州は、ブルゲンラント州、フォアアールベルク州、ケルンテン州、ティロル州の順となる。ティロル州は面積では、国土の15.06%のなかに国民の8.48%の人口が居住している。

ここで[表6] によって首都ウィーンとティロル州の人口を垂直的な空間の観点から考察する。

[表5] 州別にみた人口と面積の分布

州	面積 (%)	人口 (%)
ブルゲンラント (Burgenland)	4.72	3.37
ケルンテン (Kärnten)	11.37	6.53
ニーダーエスターライヒ (Niederösterreich)	22.87	19.11
オーバーエスターライヒ (Oberösterreich)	14.28	16.75
ザルツブルク Salzburg	8.53	6.27
シュタイヤーマルク (Steiermark)	19.55	14.28
ティロル (Tirol)	15.06	8.48
フォアアールベルク (Vorarlberg)	8.10	4.41
ウィーン (Wien)	0.49	20.76

(典拠) Statistik Austria, *Statistisches Jahrbuch 2015*, p.37 et Amt der Tiroler Landesregierung, *Statistisches Handbuch Bundesland Tirol 2014*, Innsbruck,2014, p.410 より作成

[表6] 海拔別人口分布

海拔	オーストリア	ウィーン	ティロル州
200m 以下	1,517,728	990,136	
201-300m	2,012,245	769,020	
301-400m	1,281,156	7,344	
401-500m	1,360,898	246	26,495
501-600m	961,022		243,363
601-800m	832,153		200,766
801-1,000m	357,756		144,186
1,001-1,200m	140,058		61,015
1,201m 以上	64,771		46,213
	8,507,786	1,766,746	722,038

(典拠) Statistik Austria, *Statistisches Jahrbuch 2015*, p.33 より作成

[表7] 海拔1,201mに居住する人口の州別分布

ブルゲンラント	-
ケルンテン	6,214
ニーダーエスターライヒ	48
オーバーエスターライヒ	37
ザルツブルク	4,551
シュターヤーマルク	4,190
ティロル	46,213
フォアアールベルク	3,608
ウィーン	-
オーストリア	64,771

(典拠) Statistik Austria, *Statistisches Jahrbuch 2015*, p.33 より作成

ウィーンでは人口の99.57%が海拔300m以下に居住している。一方、ティロル州では、人口の96.33%が海拔500m以上の高地に暮らしている。

さらに海拔1,201m以上に居住する人口を州別に分類した結果が[表7]である。当該の高地居住者の71%以上がティロル州居住者であることが分かる。

1.4. 土地利用形態

ティロル州における土地利用形態をみると、森林面積の占める比重が最大であり、牧草地、農業用地がこれに次ぐ規模となっている。([表8] 参照)

[表8] ティロル州の土地利用形態

	面積 (km ²)
建設用地 (Baufläche)	47.8
農業用地 (Landwirtschaftlich genutzte Fläche)	1,140.0
果樹園、ブドウ園 (Gärten, Weingärten)	115.6
森林 (Wald)	4,690.1
湖水・河川 (Gewässer)	126.0
牧草地 (Alpen)	3,282.2
その他 (Sonstige Flächen)	3,238.5
合計 (Gesamtfläche)	12,640.2

(典拠) Amt der Tiroler Landesregierung, *Statistisches Handbuch Bundesland Tirol 2014*, Innsbruck, 2014, p.7

[表 9] ティロル州の土地利用形態の相対的比較

	ティロル州における 構成比率 (%)	オーストリアにお ける構成比率 (%)
建設用地 (Baufläche)	0.4	0.8
農業用地 (Landwirtschaftlich genutzte Fläche)	9.0	30.2
果樹園、ブドウ園 (Gärten, Weingärten)	0.9	2.8
森林 (Wald)	37.1	43.7
湖水・河川 (Gewässer)	1.0	1.7
牧草地 (Alpen)	26.0	9.5
その他 (Sonstige Flächen)	25.6	28.9
合計 (Gesamtfläche)	100.0	100.0

(典拠) Amt der Tiroler Landesregierung, *Statistisches Handbuch Bundesland Tirol 2014*, Innsbruck, 2014, p.409

しかしながら、[表 9] によって、オーストリア全体の土地利用状況と比較すると、ティロル州では農業用地としての利用は小さい。最も顕著であるのは、牧草地比率が全国水準と比較して大きいことである。

1.5. 経済

ティロル州の産業構造を労働力基準にみると、第 3 次産業部門の就業が 7 割以上を占め、第 2 次産業がおおよそ 25% である。これはオーストリア全体の傾向と相似的である。国内で唯一、首都ウィーンが第 3 次産業の比重が 87% 近くに達し、第 2 次産業のそれが 13% 程度である。([表 10] 参照)

[表 11] によって一人当たり GDP を州別にみると、ティロルは、ウィーンの €47,200、ザルツブルクの €45,000 に次いで高い値を示し、経済活動が活発であることが分かる。([表 11] 参照)

ティロル州の失業率は、オーバーエスターライヒ、ザルツブルク、フォアアールベルクに次いで低い値である。6.9% という数値は、オーストリア全体の失業率、8.4% を大幅に下回る。([表 12] 参照)

[表10] 産業部門別雇用比率

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
オーストリア	3.45	23.57	72.97
ティロル州	3.07	25.34	71.58
ウィーン市	0.14	13.19	86.67

(典拠) Statistik Austria, *Statistisches Jahrbuch 2015*, p.514-515 より作成

[表11] オーストリア各州における一人当たり GDP (2013年度) 単位ユーロ

ブルゲンラント	26,100
ニーダーエスターライヒ	31,100
ウィーン	47,200
ケルンテン	31,800
シュタイヤーマルク	34,300
オーバーエスターライヒ	38,500
ザルツブルク	45,000
ティロル	40,000
フォアアールベルク	39,800
オーストリア	38,540

(典拠) Statistik Austria, *Das System der Volkswirtschaftlichen Gesamtrechnungen (VGR)*, in interrete sub: http://www.statistik.at/web_de/statistik/wirtschaft/volkswirtschaftlich-gesamtrechnungen/index.html, 15.09.2015

[表12] オーストリア各州における失業率 (2014年) %

ブルゲンラント	8.9
ニーダーエスターライヒ	8.4
ウィーン	11.6
ケルンテン	10.8
シュタイヤーマルク	7.9
オーバーエスターライヒ	5.7
ザルツブルク	5.7
ティロル	6.9
フォアアールベルク	6.0
オーストリア	8.4

(典拠) Amt der Tiroler Landesregierung, *Tiroler Wirtschafts- und Arbeitsmarktbericht 2015*, p.29

2. ティロル州内の構造

ティロル州内の面積と人口の分布を〔表 13〕に示した。州都インスブルックは、面積が州の 0.8%であるにもかかわらず、人口では 17.3%を占める。面積の大きさでは、リエント、インスブルック・ラント、シュヴァーツ、イムスト、ランデックが上位にあるが、インスブルック市を除けば、著しい差はない。人口においては、インスブルック・ラント、インスブルック市、クフシュタイン、シュヴァーツが 10%以上であり、これらとロイテ、ランデック、リエントの格差は大きい。（〔表 13〕 参照）

2.1. 政治

2013 年に実施された州議会選挙結果によると、ティロル国民党（VP TIROL）が 40%近い得票率を得た。国政選挙結果（〔表 4〕 参照）におけるオーストリア国民党の得票率（27.78%）をはるかに上回る得票率を「ティロル」国民党が獲得していることに注目したい。第 2 党（オーストリア社会民主党）、第 3 党（緑の党）の得票率とは大きな差がみられる。前進！ティロル（VORWÄRTS）、オーストリア自由党（EPÖ）、リステ・フリッツ（FRITZ）などの小政党が 5%を超える得票をえた。

〔表 13〕 各郡の面積、人口比率

郡	面積比率	人口比率
インスブルック市	0.8	17.3
イムスト	13.6	7.9
インスブルック・ラント	15.7	23.5
キットビュール	9.2	8.6
クフシュタイン	7.7	14.3
ランデック	12.6	6.1
リエント	16.0	6.8
ロイテ	9.8	4.4
シュヴァーツ	14.6	11.1

（典拠） Amt der Tiroler Landesregierung, *Statistisches Handbuch Bundesland Tirol 2014*, Innsbruck, 2014, p.7 et p.78

[表 14] 州議会選挙における政党別得票率 2013年 (%)

政党	得票率
VP TIROL	39.35
SPÖ	13.72
GRÜNE	12.59
VORWÄRTS	9.54
EPÖ	9.34
FRITZ	5.61
GURGISER	4.84
STRONACH	3.36
FÜR TIROL	0.73
KPÖ	0.53
PIRAT	0.38

(典拠) Land Tirol, Landtagswahl 2013 Landesergebnis, in interrete sub: https://wahlen.tirol.gv.at/landtagswahl_2013, 12.09.2015

(注) VP TIROL: Tiroler Volkspartei
 VORWÄRTS: vorwärts Tirol Landtagsklub
 FRITZ: Die Liste Fritz Dinkhauser
 GURGISER: GURGISER & Team / Bürgerklub-Tirol
 STRONACH: Das Team Stronach für Österreich
 FÜR TIROL: Für Tirol-Partei der Mitte
 PIRAT: Piratenpartei Österreichs

ティロル州政府の閣僚を、[表 15] に示した。首相ギュンター・プラッターの他に、国民党から5名が入閣している。緑の党所属の閣僚は、環境、自然保護、交通および社会福祉、社会融和、女性問題、児童扶助を担当する。

ここでは、オーストリアの州で一般化しているプロポルツ (Proporz) に基づく閣僚の配分は行われず、単純に国民党と緑の党の連立政権の形をとっている。

2.2. 人口

ティロル州における年齢構成の変化をみると、1960年代以降、確実に高齢化が進行していることがわかる。2014年には65歳以上の高齢者比率は17.4%に達する一方、若年人口比率が急速に低下している。([表 16] 参照)

[表 15] ティロル州政府閣僚

	政党	主たる業務
首相ギュンター・プラッター (Landeshauptmann Günther Platter)	ティロル国民党	連邦憲法、州憲法に関わる業務、国境を跨いだ協働、財務
副首相ヨーゼフ・ガイスラー (Landeshauptmann-Stellvertreter Ökonomierat Josef Geisler)	ティロル国民党	農業・林業、州道路の維持、エネルギー産業
副首相イングリット・フェリーペ (Landeshauptmann-Stellvertreterin Mag. Ingrid Felipe)	緑の党	環境、自然保護、交通
州議会議員クリスティーネ・パウル (Landesrätin Mag. Dr. Christine Baur)	緑の党	社会福祉、社会融和、女性問題、児童扶助
州議会議員ベアータ・パルフラダー博士 (Landesrätin Mag. Dr. Beate Palfrader)	ティロル国民党	建設、文化、文化財保護、老人問題
州議会議員ベルンハルト・ティルク (Landesrat DI Bernhard Tilg)	ティロル国民党	健康、療養施設、大学業務
州議会議員ヨハネス・トラッター (Landesrat Mag. Johannes Tratter)	ティロル国民党	ゲマインデ、地域開発計画、統計、労働市場
州議会議員パトリツィア・ツォラー＝フリシャフ (Landrätin Patrizia Zoller-Frischaf)	ティロル国民党	営業・工業業務、催し物、カジノ、州警察

(典拠) Land Tirol, Regierung Die Mitglieder der Landesregierung, in interrete sub:
<https://www.tirol.gv.at/regierung/>, 17.09.2015 et Land Tirol, *Geschäftsverteilung der Landesregierung*, 2013

[表 16] ティロル州人口における年齢構成の変化 (%)

年度	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上
1964	27.4	62.7	9.9
1974	27.5	61.2	11.3
1984	21.0	67.6	11.4
1994	19.7	67.8	12.5
2004	17.3	68.5	14.2
2014	14.5	68.1	17.4

(典拠) Amt der Tiroler Landesregierung, *Demographische Daten Tirol 2014*, Innsbruck, 2015, p.9

州人口 73 万人のうち、およそ 40%がインスブルック市およびその周辺に居住している（[表 17] 参照）なお、別荘人口を [表 18] でみると、その半数が外国籍である。特に、キットビュール、クフシュタイン、ランデック、ロイテの各郡では、別荘人口の 60%以上が外国人である。

[表 19] によれば、ティロル州の人口は 1991 年以降、恒常的に増加を示し、自然増と社会増が一貫して看取される。

[表 17] ティロル州人口（主たる住居を所有する者）の郡別分布（2014 年 12 月 31 日）

インスブルック市	126,965
イムスト	57,654
インスブルック・ラント	172,041
キットビュール	62,576
クフシュタイン	104,233
ランデック	43,893
リエント	48,896
ロイテ	31,691
シュヴァーツ	80,877
合計	728,826

（典拠）Amt der Tiroler Landesregierung, *Demographische Daten Tirol 2014*, Innsbruck, 2015, p.10

[表 18] 従たる住居を所有する（Zweitwohnsitz）者の数

	合計人数	外国人比率 (%)	EU 市民比率 (%)
インスブルック市	27,983	40.6	36.7
イムスト	5,800	49.9	46.4
インスブルック・ラント	15,753	32.6	29.7
キットビュール	22,634	69.5	67.6
クフシュタイン	12,974	64.1	61.9
ランデック	9,964	63.1	59.1
リエント	5,411	18.4	17.3
ロイテ	5,855	62.8	59.9
シュヴァーツ	8,378	53.2	50.1
合計	114,752	51.3	48.4

（典拠）Amt der Tiroler Landesregierung, *Demographische Daten Tirol 2014*, Innsbruck, 2015, p.71

[表 19] ティロル州の人口動態

年度	各年度 12 月 31 日における人口	出生－死亡	転出－転入
1991	632,471	3,554	4,803
1995	653,369	3,175	319
2000	671,492	2,085	1,948
2005	694,253	1,761	3,538
2010	707,517	1,372	1,483
2011	711,581	1,397	2,667
2012	715,888	1,313	2,994
2013	722,038	1,320	4,830
2014	728,826	1,443	5,345

(典拠) Amt der Tiroler Landesregierung, *Demographische Daten Tirol 2014*, Innsbruck, 2015, p.3

しかしながら、郡別人口動態をみると、ランデック、リエント、ロイテの3郡は過去10年間に人口減少を経験した。いずれも自然増はみられるが、社会減によって人口減少が導かれている。一方、インスブルック市は、わずかとはいえ自然減がみられるが、大幅な社会増がこれを補って余りある。(〔表 20〕 参照)

[表 20] 2004年12月31日～2014年12月31日の期間における郡別人口変化

	人口増減	出生－死亡	転入－転出
インスブルック市	12,527	－317	12,844
イムスト	3,105	2,116	989
インスブルック・ラント	12,560	5,275	7,285
キットビュール	2,158	980	1,178
クフシュタイン	7,445	3,421	4,024
ランデック	－575	1,534	－2,109
リエント	－1,430	518	－1,948
ロイテ	－104	184	－288
シュヴァーツ	4,186	3,068	1,118
合計	39,872	16,779	23,093

(典拠) Amt der Tiroler Landesregierung, *Demographische Daten Tirol 2014*, Innsbruck, 2015, p.6

ティロル州では、オーストリア生まれでオーストリア国籍を持つものが81.9%、国外で生まれ外国籍を持つものが11.5%居住しているほか、国外で生まれオーストリア国籍を持つもの5.0%、オーストリア生まれで外国籍を持つものが1.7%居住している^{vi)}。

主たる住居所有者のうちで、外国籍を持つものの比率を〔表21〕で確認する。州都インスブルック市において外国人比率が高いことは予想通りであるが、ロイテ郡においても16.3%が外国籍である。

外国籍所有者をさらに詳しく国籍別・郡別に検討する。（〔表22〕参照）いずれの郡においてもドイツ国籍のものが最も多い。また、隣接するイタリア国籍も一定程度居住している。旧ユーゴスラビア諸国、トルコ国籍の者は、インスブルック及びその周辺、クフシュタイン、シュヴァーツに多数みられる。

〔表21〕 主たる住居所有者のうちに占める外国籍比率（%）

インスブルック市	21.2
イムスト	9.6
インスブルック・ラント	11.0
キッツビュール	14.6
クフシュタイン	13.9
ランデック	8.8
リエンツ	4.3
ロイテ	16.3
シュヴァーツ	11.8

（典拠） Amt der Tiroler Landesregierung, *Demographische Daten Tirol 2014*, Innsbruck, 2015, p.19

〔表22〕 外国籍所有者の郡別分布

	旧ユーゴスラビア諸国	トルコ	ドイツ	イタリア	その他のEU諸国	その他
インスブルック市	4,933	2,964	7,338	2,851	5,345	4,663
イムスト	812	864	1,868	124	1,658	484
インスブルック・ラント	3,568	2,757	5,244	1,266	4,433	2,608
キッツビュール	1,286	457	4,440	199	2,693	585
クフシュタイン	2,793	2,010	5,312	383	3,729	1,116
ランデック	725	845	959	129	896	431
リエンツ	366	33	707	360	483	297
ロイテ	962	681	2,539	98	1,035	309
シュヴァーツ	2,411	1,200	2,826	236	3,193	672

（典拠） Amt der Tiroler Landesregierung, *Demographische Daten Tirol 2014*, Innsbruck, 2015, p.23

2.3. 人の移動

ティロル州における転入・転出を〔表 23〕で見ると、国内移動が国外移動を大幅に上回っていることがわかる。国内移動では転入と転出がほぼ均衡している。これに対して対国外では転入が転出を上回っている。

国内移動をさらに詳しく検討すると、ティロル州外との移動は少ない。多くはティロル州内の移動であり、そのうち、半数以上が同一ゲマインデ内での移動である。

ティロル州内の郡を超えた移動をマトリックスにした。（〔表 25〕参照）もっとも大きな数値

〔表 23〕 転入・転出の内訳

	転入	転出
国外	14,624	9,278
国内	58,856	58,986

（典拠） Amt der Tiroler Landesregierung, *Demographische Daten Tirol 2014*, Innsbruck, 2015, p.51

〔表 24〕 対国内転入・転出

	転入	転出
ティロル州以外	5,488	5,618
ティロル州内	53,368	53,368
うち、同一ゲマインデ内	27,487	27,487
同一郡内	13,842	13,842
郡間移動	12,039	12,039

（典拠） Amt der Tiroler Landesregierung, *Demographische Daten Tirol 2014*, Innsbruck, 2015, p.51

〔表 25〕 ティロル州内移動マトリックス

転出先 転出郡	Ibk-St	Imst	Ibk-La	Kitzb	Kufst	Land	Lienz	Reutte	Schwaz
Ibk-St		227	2,824	106	178	102	71	67	275
Imst	249		351	11	21	140	4	30	27
Ibk-La	2,147	348		54	176	47	36	43	324
Kitzb	317	40	197		403	35	25	30	36
Kufst	263	33	159	319		15	27	17	248
Land	170	195	82	3	13		4	10	15
Lienz	121	7	53	14	17	8		8	14
Reutte	150	31	49	12	6	11	3		7
Schwaz	279	28	300	31	350	15	5	5	

（典拠） Amt der Tiroler Landesregierung, *Demographische Daten Tirol 2014*, Innsbruck, 2015, p.62
より作成

は、インスブルック市からインスブルック・ラントへの移動であり、この逆の動きがそれに次いで大きい値を示している。その他、キットビュールからクフシュタインへの移動およびその逆の動きも比較的多い。クフシュタインへは、シュヴァーツからも比較的多数の移動がみられる。

オーストリア国籍所有者の対国外移動では、転出が転入を上回り、ヨーロッパ特に EU への転出が多い。（〔表 26〕 参照）これに対して外国籍所有者にあっては、転入が転出を上回っている。特にドイツ、ハンガリー、旧ユーゴスラビアからの転入が多くみられる。（〔表 27〕 参照）

〔表 26〕 オーストリア国籍所有者による対国外転入・転出

	転入	転出
ヨーロッパ	485	850
うち、EU27 か国	357	524
うち、ドイツ	231	339
イタリア	42	62
旧ユーゴスラビア	29	41
トルコ	55	130
スイス	42	132
アジア	22	50
アメリカ	53	49
合計	1,418	2,049

（典拠） Amt der Tiroler Landesregierung, *Demographische Daten Tirol 2014*, Innsbruck, 2015, p.87
より作成

〔表 27〕 外国籍所有者による対国外転入・転出

	転入	転出
ヨーロッパ	11,549	6,507
うち、EU27 か国	10,163	5,554
うち、ドイツ	3,650	2,298
イタリア	1,006	440
スロヴァキア	456	285
ブルガリア	409	180
ルーマニア	983	386
ハンガリー	1,462	678
旧ユーゴスラビア	1,194	684
トルコ	324	250
アジア	935	305
アメリカ	248	165
アフリカ	401	208
合計	13,207	7,227

（典拠） Amt der Tiroler Landesregierung, *Demographische Daten Tirol 2014*, Innsbruck, 2015, p.87

[表 28] ティロル州における国籍獲得 (Einbürgerungen) 者の推移

年度	総数	オーストリア国籍取得以前の国籍 (%)				
		ドイツ	イタリア	ユーゴスラビア	トルコ	その他
1985	560	44.8	19.3	4.5	0.9	30.5
1990	271	20.7	5.2	18.1	15.4	39.5
1995	1,005	3.7	1.8	26.8	51.8	15.9
2000	1,204	1.7	0.4	17.5	64.2	16.2
2005	2,540	1.0	0.1	40.5	46.3	12.0
2010	574	6.1	0.7	44.3	23.5	25.4
2014	530	6.6	2.3	32.3	24.9	34.0

(典拠) Amt der Tiroler Landesregierung, *Demographische Daten Tirol 2014*, Innsbruck, 2015, p.66

ティロル州における市民権獲得者の動向を 1985 年以降まとめた。([表 28] 参照) 1985 年において、オーストリア国籍を取得した人々の旧国籍はドイツが最も多く 44.8% を占め、それに次いで旧国籍イタリアが 19.3% であった。1995 年～2005 年にかけてオーストリア国籍取得者が増加するとともに、旧国籍ではユーゴスラビアとトルコが多数を占めるにいたった。

2.4. ティロル州経済

郡内の経済力の空間的な特徴を把握するために、郡別の事業所数と雇用を [表 29] により検証する。1981 年、2011 年の両年度を通じて、インスブルック市が事業所数と雇用において最大であり、インスブルック・ラントがそれに匹敵する値を示している。

ティロル州のなかで、1981 年以降、事業所数が最も増加したのは、インスブルック・ラントであり、インスブルック市、クフシュタインがこれに次ぐ。雇用の増加では、イムストが最大であり、インスブルック・ラント、クフシュタインがこれに次いで多い。ただし、インスブルック市は事業所数の伸びと比較して、雇用の増加は劣る。

郡内で事業所数においても、雇用においてもロイテが最も伸びが小さかった。([表 30] 参照)

[表 29] ティロル州内郡別事業所数および雇用

	年度	事業所数	雇用
インスブルック市	1981	5,263	58,397
	2011	11,802	93,497
イムスト	1981	2,182	11,033
	2011	4,173	22,335
インスブルック・ラント	1981	5,068	35,896
	2011	11,414	63,554
キットビュール	1981	3,185	17,002
	2011	5,882	27,432
クフシュタイン	1981	3,747	26,305
	2011	7,420	45,855
ランデック	1981	2,140	10,615
	2011	3,482	16,466
リエント	1981	2,002	12,423
	2011	3,200	19,582
ロイテ	1981	1,793	10,249
	2011	2,415	14,025
シュヴァーツ	1981	3,501	22,217
	2011	5,858	34,920
ティロル州	1981	28,881	204,137
	2011	55,646	337,666

(典拠) Amt der Tiroler Landesregierung, *Statistisches Handbuch Bundesland Tirol*, 2014, p.172

(注) 農業・林業を除く。

[表 30] ティロル州内郡別事業所数および雇用の変化 2011/1981×100%

	事業所数の変化 (%)	雇用の変化 (%)
インスブルック市	224.24	160.11
イムスト	191.25	202.44
インスブルック・ラント	225.22	177.05
キットビュール	184.68	161.35
クフシュタイン	198.03	174.32
ランデック	162.71	155.12
リエント	159.84	157.63
ロイテ	134.69	136.84
シュヴァーツ	167.32	157.41
ティロル州	192.67	165.41

(典拠) [29] を基に作成。

オーストリア・ティロル州社会の基礎構造

ティロル州において事業所数が著しく増加している状況をさらに確認するために、[表 31] によって、州内における創業と倒産を統計的にみていく。2005 年以降、2014 年に至るまで、毎年 2,000 件を超える企業発起がある一方、倒産件数は 365～611 件の範囲に収まっており、同州において起業が活発に行われていることが明らかである。

2014 年には、202 件の倒産訴訟手続きが起こされ、その内訳は、ビジネスサービス部門 42 件、宿泊・飲食部門 38 件、建設業 24 件であった。それを創業年度ごとにみると、2010 年以降に設立された企業が 33%、2005 年～2009 年創業が 24%、2000 年～2004 年創業が 15%、1995 年～1999 年創業が 9%であった^{vii}。

このことから倒産企業は比較的近年に設立されたものがそのほとんどを占めているといえよう。倒産理由の 2/3 は、創業の失敗（Gürndungsfehler）、資金不足（Kapitalmangel）、経営の失敗（Managementfehler）であった^{viii}。

州内の産業構造を [表 32] に依拠してみてゆく。事業所数においては、商業部門が最大であり、1 万件以上の事業所が存在している。宿泊・飲食がおよそ 8,700 件、農業・林業が 8,180 件である。一方、雇用面では、商業部門が最大で 55,000 件の雇用を有し、製造業がこれに次いで 51,000 件である。宿泊・飲食は 33,000 件であり、健康・社会事業をも下回っている。

経営規模においては、農業・林業は他人労働を雇用しない比率が 94%に達している。その他の部門においては、従業員 10 名未満の事業所が大半を占めている。そのなかで、製造業、建設業には経営規模がそれを上回るものが存在している。（[表 33] 参照）

[表 31] ティロル州における企業の創業と倒産

年度	創業	倒産
2005	2,103	611
2006	2,136	583
2007	2,432	468
2008	2,543	462
2009	2,337	484
2010	2,548	458
2011	2,462	396
2012	2,362	380
2013	2,442	393
2014	2,014	365

（典拠）Amt der Tiroler Landesregierung, *Tiroler Wirtschafts- und Arbeitsmarktbericht 2015*, Innsbruck, 2015, p.21 et p.25

[表 32] 産業別事業所数および雇用

	事業所数	雇用
農業・林業 (Land- und Forstwirtschaft)	8,180	12,832
鉱山 (Bergbau)	49	643
製造 (Herstellung von Waren)	3,151	51,266
エネルギー供給 (Energieversorgung)	163	2,669
水道・廃棄物処理 (Wasserversorgung und Abfallentsorgung)	173	1,425
建設 (Bau)	3,931	29,367
商業 (Handel)	10,304	55,093
交通 (Verkehr)	1,934	19,790
宿泊・飲食 (Beherbergung und Gastronomie)	8,731	33,182
情報・通信 (Information und Kommunikation)	1,429	5,154
金融・保険 (Finanz- und Versicherungsleistungen)	1,745	10,755
土地所有・住居所有 (Grundstücks- und Wohnungswesen)	3,253	5,361
独立専門サービス (Freiberuflich/tech. Dienstleistungen)	7,199	18,858
その他経済サービス (Sonstige wirtschaftliche Dienstleistungen)	1,861	10,606
行政 (Öffentliche Verwaltung)	665	18,181
教育 (Erziehung und Unterricht)	1,801	26,890
健康・社会事業 (Gesundheits- und Sozialwesen)	4,729	34,168
芸術・芸能 (Kunst, Unterhaltung und Erholung)	1,515	5,182
その他サービス (Sonstige Dienstleistungen)	3,013	9,076

(典拠) Amt der Tiroler Landesregierung, *Statistisches Handbuch Bundesland Tirol*, 2014, p.168-171
より作成

[表 33] 経営規模別事業所数

産業部門	事業所で雇用している従業員数による経営規模別比率 (%)						
	0	1-9	10-19	20-49	50-99	100-249	250 以上
農・林業	93.92	5.86	0.16	0.02	0.04	-	-
製造	31.96	47.35	8.76	7.33	2.25	1.46	0.89
建設	34.42	48.59	9.49	5.52	1.27	0.48	0.22
商業	35.07	52.00	8.40	3.61	0.65	0.23	0.03
宿泊・飲食	45.87	46.94	4.25	2.11	0.68	0.14	0.02
専門サービス	61.34	35.20	2.46	0.72	0.17	0.07	0.04
健康・社会事業	50.75	41.19	3.74	2.50	0.34	0.34	0.21

(典拠) Amt der Tiroler Landesregierung, *Statistisches Handbuch Bundesland Tirol*, 2014, p.168-169
より作成

オーストリア・ティロル州社会の基礎構造

従業員 500 名を超える事業所が存在する例は、[表 34] にみられるように、限られた業種にとどまっている。製造業においては、従業員 1,000 人以上の事業所が 6 件存在する。

大規模事業所の所在は、インスブルック市が突出しているものの、イムスト郡を除いたすべての郡に存在している。([表 35] 参照)

[表 34] 大企業（従業員数 500 名以上の事業所）の産業別分布

産業部門	経営規模（従業員数）	
	500-999	1,000 以上
製造業	5	6
建設業	2	
商業	1	
専門サービス	1	
行政	2	1
教育	1	2
健康・社会事業	4	2

（典拠）Amt der Tiroler Landesregierung, *Statistisches Handbuch Bundesland Tirol*, 2014, p.168-169
より作成

[表 35] 大企業（従業員数 500 名以上の事業所）の郡別分布

郡	経営規模（従業員数）	
	500-999	1,000 以上
インスブルック市	7	3
イムスト	-	-
インスブルック・ラント	3	2
キットビューール	2	-
クフシュタイン	2	2
ランデック	1	-
リエンツ	-	1
ロイテ	1	1
シュヴァーツ	-	2

（典拠）Amt der Tiroler Landesregierung, *Statistisches Handbuch Bundesland Tirol*, 2014, p.168-169
より作成

[表 36] ティロル州郡別失業率 (2014年)

郡	失業率 (%)
イムスト	7.0
インスブルック市およびインスブルック・ラント	6.7
キッツビュール	7.0
クフシュタイン	6.5
ランデック	10.5
リエント	10.1
ロイテ	5.8
シュヴァーツ	6.3
ティロル州	6.9

(典拠) Amt der Tiroler Landesregierung, *Tiroler Wirtschafts- und Arbeitsmarktbericht 2015*, p.30

失業率は、州全体で6.9%であるが、最も低い値はロイテ郡の5.8%であり、シュヴァーツ郡、クフシュタイン郡が低位にある。

小括

ティロル州は、山岳高地に居住している人口がオーストリアで最も多い。国政選挙、州議会選挙における投票行動においては、地域性、保守性が浮かび上がる。

一方、州人口は、着実な増加を示し、一人当たりGDPはオーストリアの他の州と比較して高い水準にある。また失業率においても州経済が堅調であることを示している。とりわけ、企業の参入が退出を恒常的かつ大幅に上回っている。

市民権を獲得し、オーストリア国籍となったものの傾向をみると、1980年代にはドイツ人、イタリア人が、1990年代以降は旧ユーゴスラビア人、トルコ人が主流となった。

注

- i 自治体国際化協会『オーストリアの地方自治』2005年、115ページおよび国立国会図書館調査及び立法考案局『各国憲法集(3) オーストリア憲法』2012年、82ページ
- ii Amt der Tiroler Landesregierung, *Statistisches Handbuch Bundesland Tirol 2014*, Innsbruck, 2014, p.5

- iii Amt der Tiroler Landesregierung, *Statistisches Handbuch Bundesland Tirol 2014*, Innsbruck, 2014, p.6
- iv Tirol Werbung GmbH, *Geschichte des Tiroler Tourismus*, p.1
- v プロポルツについては、自治体国際化協会『オーストリアの地方自治』、2005年、83～84ページ、102ページ。ティロル州では、1998年にプロポルツ原理から多数派原理への転換がなされた。(東原正明「連邦国家オーストリアにおける州政府の形成——プロポルツの原理から多数派の原理へ——」『福岡大学法学論叢』第57巻4号、2013年)
- vi Amt der Tiroler Landesregierung, *Demographische Daten Tirol 2014*, Innsbruck, 2015, p.24
- vii Amt der Tiroler Landesregierung, *Tiroler Wirtschafts- und Arbeitsmarktbericht 2015*, Innsbruck, 2015, p.25-26
- viii Amt der Tiroler Landesregierung, *Tiroler Wirtschafts- und Arbeitsmarktbericht 2015*, Innsbruck, 2015, p.26